支部長挨拶

1999年５月に開かれました日本気象学会北海道支部の理事会において、支部長を務められていた古川武彦前札幌管区気象台長の後を引き継いで、第21期後半の支部長に推薦されました。微力ではありますが支部発展のために精一杯努力する所存ですのでよろしくお願いします。

日本気象学会は、会員数約4000名、予算規模約１億円で、地球物理学関連学会としては最大級の団体ですが、当学会も参画しているIUGG（国際測地学地球物理学連合）の次期総会が、2003年に当地札幌で開かれることが今期の総会で正式に決定されました。地球物理学関連で最大規模のイベントであるIUGG総会が当地札幌で開かれることは、当支部として大変喜ばしいことであると同時に、地の利を生かした積極的な参画や協力が必要であるとも思います。

北海道支部は会員が300名弱と小世帯ながら積極的に活動を続けている支部だと思います。昨年度は、総会、研究発表会、第16回夏季大学講座等の他に、10月には苫小牧市の協力を得て同市において気象講演会を開催し好評を博したと伺いました。

本年度は、すでに第17回夏期大学講座を去る７月29、30日に開催し、気象予報、地球環境、気候、津波に関する講義と、青少年科学館および気象台の見学会を設け、約40名の受講者がありました。この10月には北見市の積極的な支援を得て「北見周辺の自然と気候変動」をテーマに気象講演会を同市で開催する準備を進めています。この講演会では、北見市出身で日本気象学会理事長でもあられる廣田勇京都大学教授のご厚意により「地球温暖化の諸問題」と題した特別講演を頂くことになっています。

気候・環境問題や気象災害の防止軽減への社会の関心が高まるなかで、気象学会には、現象の解明や予測技術開発などの情報交換の場と同時に、気象学に関する知識の普及・啓蒙への期待が寄せられています。支部活動を通じ一人でも多くの方に大気現象や気象学に興味をもっていただけるよう委員の皆様のご協力とご支援をお願いします。

ところで、先の日本気象学会総会において定足数に関する定款が５分の１から過半数に改訂されました。これを受けて当支部においても次回総会から新たな厳しい定足数が適用されるため、総会が不成立で支部活動が滞ることも予想されます。会員の皆様にはこの点にも配慮いただき、支部活動への積極的なご協力とご支援をお願いします。

日本気象学会北海道支部
支部長　**巽　　保　夫**
（札幌管区気象台長）